

2010 年度後期 専攻 教育改善委員会 議事録 (案)

1. 実施日時と場所

平成 23 年 4 月 22 日 (金) 13:10~14:25 都市システム工学科 東棟 3F 会議室

2. 出席者

常勤教員：小柳武和，沼尾達弥，金 利昭，小峯秀雄，横木裕宗，井上凉介，
山田 稔，寺内美紀子，桑原祐史，原田隆郎，信岡尚道，村上 哲，
車谷麻緒 (全常勤教員 17 名のうちの 13 名が出席)
(常勤教員のうちの欠席者：横山功一 (紙面参加)，三村信男 (紙面参加)，
呉 智深 (紙面参加)，藤田昌史 (紙面参加))

非常勤教員：無し。

技術職員：伊佐治 進，木村 亨，金澤浩明

3. 点検評価の結果

3.1 授業方法で優れている点

- ・ (本来の FEM の話ではなく途中から復習としてやった) 構造力学の中で「構造物の静定・不静定」の話は，実際面接で質問され，役立った学生がいた。(構造物の数値解析法特論)
- ・ 土木の各分野におけるソフトコンピューティングを扱い，言語は何でも良いがプログラミングの課題を出している。指導教員と相談して授業計画を立てるよう指導している。(社会基盤情報処理特論)
- ・ 前期から後期に移動したためか，受講生は減少したが，授業時に取りやめないように注意し，取りやめ学生をなくすことができた。学部では教えていない土の物理化学的性質を取り上げた。多くの学生にとってもらうため，理論的なものにはあまり触れず実験的な内容を主とし，受講者の専攻に合わせた話題を取り上げて自分の研究に役立ててもらおうようにした。(環境地盤工学特論)
- ・ 最新理論から材料開発の問題まで，踏み込んだ内容の授業を行った。(土木材料工学特論)
- ・ 基礎的な部分を理解していない学生が多かったので，基礎的な内容を増やした。(水質工学特論 (代理：横木))
- ・ 受講者は研究室の学生のみであった。人数は少ないが集中力を切らさないように努力した。(交通計画特論)
- ・ 参加型の講義になるよう工夫した。環境問題を取り上げ，意見を述べさせ，質問をさせた。(環境工学特論)

3.2 授業方法で改善すべき点

- ・ 授業方法というより、出席者が少ない（または減少した）科目の対策について3. 3の3番目のような議論がなされた。
- ・ 都市システム工学特別研究 II, 都市システム工学演習 I の実施内容, 成績評価の方法など, 研究室間で方法を統一できないかの議論が行われた。

3.3 授業に関して出たその他の意見

- ・ 人数が少ない（自分の研究室の学生だけ）ためゼミ形式にした。人数が少ないことで気を緩めないようにした。（建築デザイン学特論）
- ・ 受講者は研究室の学生のみであった。人数は少ないが集中力を切らさないように努力した。（交通計画特論）
- ・ 自分の研究 G の学生しか出席しなかった科目（建築デザイン学特論, 交通計画特論など）や開講時期を前期から後期に移動したためか受講生は減少した科目（環境地盤工学特論）が出たことをうけて, 出席者間で以下の集中討議がなされた。
- ・ 前期と後期で受講者に偏りがある。・後期は就職活動で欠席が多い。・前期に集中して単位を取るのではなく, 幅広く科目を履修してほしい。
 - ・ 改善策として,
前後期の開講科目数のバランスを考える, 情報工学専攻での工夫（8回授業1単位科目の実施により前期と後期でばらけるようになった）を参考にして, 前・後学期を8回ずつの4学期に区切り, 就職活動等で履修生が減る最終学期開講を避ける, 後期も含め, 幅広く科目を履修させるようにアナウンスする,
等の意見が出された。
- ・ 行列の演算, 構造力学の基礎事項などが分かっていないため, 本来の FEM の話ではなく途中から構造力学の復習をやった（そちらの方に興味を示す）。大学院の試験を難しくした方がよいのでは。プログラミングを課すかどうか考えた。（構造物の数値解析法特論）

4. 課題に対する対応

上記の課題に関しては, 今後教務・学務WGを中心に引き続き検討していくことを確認した。

以上